新河岸川のあらまし（11）

天田　眞

朝霞水門（表紙参照）

新河岸川と朝霞調節池の一部を大きく跨いでいる 254 バイパスの朝霞大橋をくぐると、目の前に巨大な朝霞水門が現れます。

朝霞水門は、新河岸川の洪水を荒川に放流するため、両河川が接近した位置の荒川右岸堤防に造られ、幅 20m×高さ約 17mの巨大なゲートが２門並び、1995 年に完成しました。

一般に新河岸川の洪水のピークが荒川より早いため、新河岸川の洪水時にゲートを開いて荒川に放流し、荒川の水位が高くなったらゲートを閉じて逆流を防ぎます。

新河岸川の水を洪水時に荒川に放流するという点では、以前、この連載や表紙で紹介した、『渋井水門→新河岸川放水路→びん沼川→南畑排水機場』と同様の機能を持つものですが、ここには排水機場がないので、荒川の水位が新河岸川より高ければ放流はできません。計画では排水機場もありましたが、実施の動きがありません。

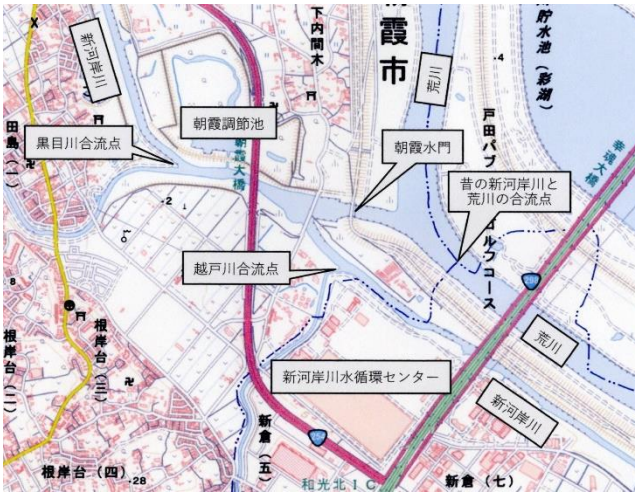
越戸川（こえどがわ）の合流

朝霞水門を左手に見て新河岸川を下ると、右岸から越戸川が合流します。この川は自衛隊朝霞駐屯地内を水源とする一級河川で、新河岸川の支流としては小規模な河川ですが、湧水もあり水質は良好です。少し遡った 254 バイパスの橋から上流部は、埼玉県の『水辺再生 100』事業で、鉄板やフェンスに囲まれ人が近づけなかった川から、護岸や遊歩道が整備され、水辺に親しめる川になりました。

昔（昭和５年以前）の新河岸川の終点

越戸川は朝霞市と和光市の境界線になっていますが、地図をたどると、新河岸川合流後の境界線は一旦新河岸川に沿ってから荒川に向かい、荒川の上で朝霞市・和光市・戸田市の境界が交わっています。この地点が 1930（昭和５）年竣工の新河岸川改修工事以前に、新河岸川が荒川に合流していた場所です。現在、ここより下流を流れて隅田川に向かっている新河岸川は、この改修工事で新たに開削された川です。

川越と浅草の間の舟運も、ここより下流は荒川で運行しており、新河岸川に入って最初の**新倉河岸**は幸魂大橋と越戸川合流点の中間の右岸（現新河岸川水循環センター）にありました。



荒川側上空から見た朝霞水門
（国交省　荒川上流河川事務所のホームページより）

親水的に改修された越戸川